

会報【第55号】

NPO法人
コミュニティ時津
COMMUNITY TOGITU

平成30年1月発行

活動報告(平成29年10月～12月)

内 容

- ✚ 新年のごあいさつ
- ✚ 時津港のごみ拾い
～参加者 約50人、燃やせるごみ990kgを収集～
- ✚ パソコン教室(「やさしいパソコン教室」)
～10月6日スタート、11月24日終了。総合福祉センターロビーに卒業作品を展示～
- ✚ 海外支援(カンボジア)
～11月28日から12月4日まで支援訪問。現地視察と支援品を届ける～
～2017カンボジア訪問記～
- ✚ 協働事業 土曜学習教室(とぎつサタデールーム)
～「とぎつサタデールーム」が文部科学大臣表彰を受ける～
～長崎県の関係者が「とぎつサタデールーム」を視察～
 - ・第6回 ～スポーツの秋にちなみ「長崎発祥のスポーツ」を学ぶ～
 - ・第7回 ～「日本と外国の文化」の違いを学ぶ～
 - ・第8回 ～英語で歌うクリスマスソングとクリスマスリース作り～
- ✚ 当面の予定
 - ◎シニア パソコン教室事業「アミーゴ サロン」後半がスタート
 - ◎時津港沿岸(ウォーターフロント公園周辺)のごみ拾い 3月24日(土)実施
- ✚ ホームページ掲載記事
 - ◎ ホームページ 21件 ブログ 22件(10月～12月)

★新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。

昨年は、国内外を問わず甚大な自然災害や政情不安など騒然とした1年でした。「漢字の日」にあたる12月12日、京都・清水寺で発表された2017年の世相を表す漢字は、日本漢字能力検定協会の一般公募で、7014票を獲得した「北」に決定しました。北朝鮮のミサイル発射や核実験の強行、九州北部豪雨、北海道産のじゃがいもの不作、北海道日本ハムの大谷翔平選手や清宮幸太郎選手、競馬キタサンブラックなどが選ばれた理由として挙げられました。

本年がどのような年になるかは予測できませんが、来年の5月1日には「平成」から新しい元号に変わります。「明治は遠くになりけり」時代の昭和前半生まれの私ですが、昭和が遠のいていくのに一抔の寂しさを覚え、残りの平成が平穏無事であることを願っています。

さて、NPO法人コミュニティ時津は、平成16年4月に七つの活動項目（事業）を掲げてスタートし、平成19年に五つの事業に集約するなどの変遷はありましたが、現在会員数70人で、設立15周年を迎えます。

2025年問題を視野に、時津町社会福祉協議会と共催で開設したシニアパソコン教室「アミーゴサロン」は、登録会員数27人で、パソコンが趣味の人またはスキルアップしたい人などが集い、和やかな雰囲気の中で、教えたり教えられたりの健康ライフにつながる取り組みとして次年度も開催します。

時津町から子どもの居場所作り実行委員会（田窪 幸男 会長）への委託事業で、当法人の協働事業「とぎつサタデールーム」が、平成29年度「地域学校協働活動」推進にかかわる文部科学大臣表彰を受けるなどの明るいニュースもありました。

また、当法人の会員が運営する「地域カフェ とき」と時津子ども食堂「はこべら」が相次いで開店しましたが、協力団体として広報などにかかわっていきます。

本年は15周年の節目の年です。活動がマンネリ化しないように一段と身を引き締め、活動をブラッシュアップしていきたいと思っています。

昨年と変わらぬご支援、ご協力を切にお願いして、新年のごあいさつとさせていただきます。

（理事長 田窪 幸男）



活動の詳細

★ 「時津港のごみ拾い」

～参加者 約50人、燃やせるごみ990 ㎏を収集～

10月21日（土）9:00～11:00、約50人が参加し、時津港沿岸のごみ拾いを実施しました。収集した燃やせるごみ990 ㎏は、クリーンパーク長与（長与町）に運びました。燃やせないごみは、家庭内ごみとして時津町内の「ごみステーション」に出す程度の量でした。

今回は、十八銀行時津支店や親和銀行時津

支店、ケンコーホーム、別所組、啓正会（清水病院関係）、春回会（北病院）、役場職員などの参加がありました。毎回、10月の参加者は少ない傾向にありますが、今回、少なかった原因は、衆議院議員選挙や台風21号襲来予報があるなど、ぐずついた天気が影響したと思われます。

そのような中でも川棚町や長与町、長崎市から親子連れで参加された方もおられました。一方で、時津町のシンボルの一つであり、町民

憩いの場でもあるウォーターフロント公園沿岸の清掃ボランティアに、町民の参加が少ないのが気になりました。



作業にかかる前の全体ミーティング



陸上班の作業状況



海上班の作業状況

★ 「やさしいパソコン教室」

～10月6日スタート、11月24日終了。総合福祉センターロビーに卒業作品を展示～

10月6日（金）にスタートした「やさしいパソコン教室」が、11月24日（金）に終了しました。この教室は60歳以上の初心者を対象にした「ワードの基礎から年賀状作り」の講座で定員15人、週2回（火曜日と金曜日）の計10回開催しました。今回は、この講座では初めてのエクセルで名簿を作り、宛名面に差し込み印刷する方法を取り入れました。

「年賀状は作れるから」と受講を敬遠する人がいますが、この教室はマイクロソフト社のワードの基礎を学び、お知らせや会報作りが出来るようにすることも目標にしているのです。原点に戻って基礎を学ぶための受講をお奨めします。

受講者の卒業作品が、左底郷の時津町総合福祉センターに展示されました。



教室の様子



閉講式 社協 浦川会長のあいさつ



卒業作品の展示状況

★ 海外支援（カンボジア）

～11月28日から12月4日まで支援訪問。現地視察と支援品を届ける～

「カンボジアの恵まれない子どもたちへの支援活動」の一環として、友岡 純一 副理事長と太田 千賀子 理事（事務局長）が、カンボジアを訪問し、皆さんから預かった支援物資を手渡したり、これまでに支援並びに贈呈した設備の使用状況を確認したり、点検整備を行ったりしてきました。11月28日（火）から12月4日（月）までの訪問でしたが、今後の支援方針を模索するなど有意義な訪問でした。以下、両理事の訪問記を紹介します。



支援品を渡す太田氏（左）と友岡氏

～2017カンボジア訪問記～

2017 カンボジア支援の旅は、出発前にノリア孤児院の岩田亮子氏、「特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス」（以下テラと呼ぶ）の江角 泰氏と連絡を取り、現地での活動スケジュールや宿泊・交通手段などを打ち合わせ、手配していただいたので、支障なくスムーズな活動ができた。

現地ではテラの駐在員、江角氏がラオス出張中で不在だったが、日本人スタッフ2人（延岡氏・佐野氏）が応対してくれた。ドライバーも新人で若返り、最も頼りにしている（英語が話せる）クンチャイは相変わらず元気に付き合ってくれた。



ロカブス村のミーティング

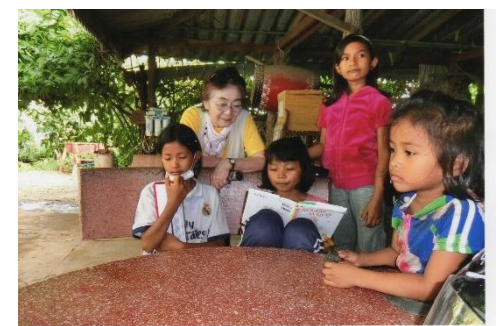
福岡からバンコク経由カンボジアのプノンペンへ向かう。朝（長崎を）出て夜にはプノンペンで、晩ご飯を食べるといふ距離を遠いとするか近いとするか？

今回も日本から送った皆さんからの支援物資と現地調達した米やパン、クッキングの必需品（油、砂糖、塩、ニンニクなど）を直に渡してきた。現地の人からは「また来るよと言って、また来る人は本当に少ないです」という言葉で、長年の支援訪問を感謝された。



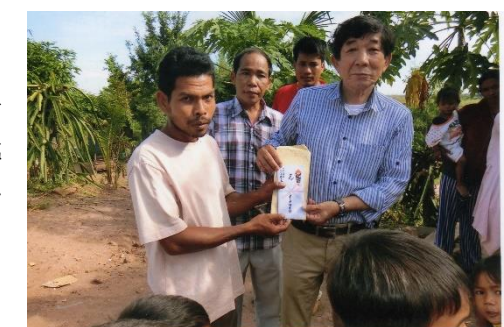
静かに自分の出番を待つ子どもたち

カンボジアの子どもは、日本の子どもより体格の面では、2～3 学年ぐらい劣る。原因は3 歳ぐらいまでに基本的な栄養が足りていないのではないだろうか。孤児院の子どもは、孤児院を出てからどうするかが深刻な悩みになっている。日本みたいに環境が整っていない国での進学、就職、そして結婚して家庭を持つというのは至難なことである。こういう状況を鑑みるに、小さなことではあるが灌漑（かんがい）設備などの自立のための支援の必要性を感じている。



絵本を読む子どもたち

現地では昨年ころから電柱、電線の敷設が進み、各家庭でも電気が使われるようになっており、暮らし向きもかなり向上している。街なかには大型スーパーなども目立つようになったが、水の供給については未整備で今後の課題。10 年前に比べれば学校の環境整備も進んできている。環境美化も意識されるようになったが、他に依存する気持ちから真の意味での自立意識が必要かと思う。



預かった支援金（寄付）を渡す

去年は元気だった地雷被害者のスー・マオさんの死に遭遇、残された2人の子どもの今後のことが気になった。また「雨乞い」の行事も初体験。乾季でも川からの取水で、灌漑設備が整備されれば「雨乞い」に頼らなくてもいいのかなと思った。今回も2つの孤児院の子どもたちに再会して、彼らの成長に応じた別の課題への支援も含め、今後も見守っていきたい。

11月28日(火)

朝、福岡空港出発、バンコクからカンボジアに入り、その日はプノンペン泊。

11月29日(水)

活動開始。午後1時過ぎ、米・食料品などを購入後「礎の石孤児院」を訪問。丁度午後の授業がある中学生たちが出掛けるところで、支援品を囲んで写真撮影。夜10時過ぎシェムリアップ村到着。



「礎の石孤児院」のスタッフと記念撮影

11月30日(木)

シェムリアップから4時間かけてバタンバンへ移動。ノリア孤児院がオープンしたカフェ「H.O.C」(HOPE OF CHILDREN)で昼食。

孤児院育ちの男の子がバイクタクシー トゥクトゥクの運転手になっていて、利用させてもらった。孤児院に必要な米、調味料類、洗剤などを購入してノリア孤児院を訪問。子どもたちと交流の時間を持ち、畑を見て回った。畑は手入れが行き届いているとは言えない状況。ただ、稲は育てていて収穫の時期を見極めて、ちゃんと収穫してほしいと思った。

岩田さんが10月に日本に帰国している間に、カフェの経営は危機に瀕し、客は減り、電気料金などが払えず、停電寸前までいったらしい。孤児院の出身者が自立して経営をしていく、という方向性はまだ見えていない。夕方からは孤児院の子どもたちのお誕生会に参加、総勢30人のバーベキュー大会(ジンギスカン鍋風)となった。



「ノリア孤児院」支援米の前で



カフェ「H.O.C」左端が岩田さん

12月1日(金)

まず地雷被害者への支援米 5kg×15袋を購入。テラの事務所に日本から送った支援品を取りに行き、一部をノリア孤児院へお届け。夕食はテラの皆さんとの鍋料理。

12月2日(土)

テラのメンバーと朝食後に、昨日購入した米を積んで出発。途中でフランスパン100本を購入し支援先に向う。まず、村の診療所でタオル・白衣・衣類などを渡し、玄関の門灯設置費として20ドルを贈る。

ロカブス村への移動中、去年は元気だった訪問予定の地雷被害者スー・マオさんの訃報が入った。2~3日前から行方不明だったそうで、その日、川で発見されたとのこと。ご遺体にお別れをし、遺族(お姉さん)に米10kgと100ドルを渡す。

気を取り直して、小学校、共同販売所、共同農園予定地、さらに小学校の奥に貯水池を掘っている現場などを視察。

灌漑用水を利用した菜園で成功した女性が、野菜と雑貨の売店をやっておられ、わずかだが支援活動の成果を実感した。

その後、村のミーティング・教会のミーティングに参加し、農業指導をされるテラのスタッフ3人の話を熱心に聞いていた人や子どもたちに文具・衣類・飴・フランスパンを渡した。教会のミーティングの際に、長崎県体育協会から頂いた県の鳥オシドリのロゴが入ったポロシャツとTシャツを配り、喜んで着用した姿を写真に収めた。また、ここでは灌漑用のポンプを望んでおり、一式分として1000ドルを贈り、テラに管理していただくようお願いした。教会のミーティングが終わるころには日が暮れた。(宿舎は「ゲストハウス」、シャワーは水・クーラーなし・窓の鍵は閉まらない・ベッドの上を小さなコオロギがピョンピョン・虫も飛んでいる・・・！)



整然と並び支援品を受け取る



オシドリのロゴ入りシャツを着て喜ぶ

12月3日(日)

朝、テラ車で、まずフランスパン100本を購入。昨年初めて訪ねた新しい村の「雨乞い」行事に参加。雨季が終わったばかりなのに、この村だけ雨が降らず、池に水が無くて、農作物が枯れてしまい、「雨乞い」をすることになったという。果物・飲み物を供え、巫女？と思われる女性が祈りをしてお線香を焚き、それぞれ何本か持って、供え物の脇に置く儀式で、私たちもお祈りを捧げた。だが、その後も暑くカンカン照りだった。

この村(28世帯ぐらい)でフランスパン・飴・文具・衣類を配布すると、大いに賑わい盛り上がった。日本の支援者から預かった支援金を贈り、灌漑用の費用としてテラに管理していただくこととした。

その後、地雷被害者の家を訪問、米など贈った。10人の子どもがいて、働き者の女性は、夫の稼ぎと支援金で借金を返し、孫にも恵まれ何とか暮らせるようになっていた。出稼ぎで不在がちな夫と初めて会うことができた。

タイ国境の近くの地雷被害者の家も訪問、その村には米・文具・衣類などを配布した。

予定の活動をすべて終了し帰途に就く。国境で出入国手続きを済ませ、バンコクへ向うタクシーに乗り換えカンボ



フランスパン100本を購入



「雨乞い」の儀式に参加



支援品を直に渡す

ジアからタイへ。道路は右側通行から左側通行へ変わり、道路の整備もよくされていた。但し、約4時間の約束（予定）が5時間以上かかった。

12月4日（月）

午前1時（日本時間 3時）バンコク空港発。 午前8時（日本時間）福岡空港着。
日本とカンボジアのプノンペンまたはタイのバンコクとの時差は2時間。

（友岡 純一・太田 千賀子）

協働事業

★ 土曜学習教室（とぎつサタデールーム）

～「とぎつサタデールーム」が 文部科学大臣表彰を受ける～

平成 29 年度 「地域学校協働活動」 推進にかかわる文部科学大臣表彰式が 12 月 7 日（木）、文部科学省東館 3 階講堂（東京都千代田区霞が関 3-2-2）で執り行われました。

長崎県の推薦を受けていた「とぎつサタデールーム」の受賞が 11 月初めに決定し、時津町役場社会教育課の小川 晶子担当職員（コーディネーター）と子どもの居場所作り実行委員会 田窪 幸男 会長が、皆さんを代表して表彰式に出席しました。

被表彰団体は、全国で 150 団体。長崎県からは、壱岐市の「渡良っ子サポート会議」と五島市の「エンジョイ サタデースクール」、佐世保市の「猪調小放課後子ども教室」が受賞しま

した。北は北海道から南は沖縄まで、随行者も入れると 300 人にもなる大掛かりな表彰式でした。受賞した団体は氷山の一角で、全国津々浦々大勢の方が「地域学校協働活動」にかかわっていることや子どもの健全育成のためには、地域住民の力が必要なことを再認識し、身を引き締めています。

今回の受賞は、行政・学校・地域団体の協働が評価されたものと受け止め、関係者各位に深く感謝しています。

内部的には、子どもとの年齢差が少ない大学生に主体性を持たせた教室の運営が、楽しい雰囲気作りにつながり、他に類を見ない活動になっていると認識しています。



霞が関 文部科学省東館 3 階講堂で表彰式と意見交換会が行われた

～長崎県の関係者が「とぎつサタデールーム」を視察～

12 月 9 日（土）、「長崎県放課後子ども総合プラン及び土曜学習」推進委員会の 5 人の委員と長崎県教育庁生涯学習課の 3 人（事務局）が、時津公民館別館で開催した「とぎつサタデールーム」の視察に見えられました。

この日は、前半の英語の学習が、英語で歌う

クリスマスソングで、後半がクリスマスリース作りでした。視察団の方には英語の時



クリスマスリースの前で終礼

間の終盤からクリスマスリース作りの最後（完成）までを見ていただきました。

正午から会場を3階に移し、視察団との意見交換会を行いました。司会は県生涯学習課馬場 裕宣 係長が務め、原 洋 課長の挨拶の後、子どもの居場所作り実行委員会の田窪 会長が「とぎつサタデーRoom」の概要説明を行ってから意見交換会に入りました。

意見交換会では、大学生スタッフのメンバー集めや次年度に引き継ぐ難しさなどについての質問がありました。

原 洋 生涯学習課課長は「行政のコーディネーター・大学生スタッフ・地域スタッフが、それぞれの役割をきちんと果たして、教室をうまく運営している。子どもたちも生き生き

として楽しんでいるところを見せていただいた。このような活動をやっているところは長崎県にはなく感動しました」という主旨の話をされま



時津公民館別館 3階 意見交換会

した。身に余るお話をいただき、意を新たにより良い活動にしていきます。

意見交換会には参加されませんでした。長崎県教育庁義務教育課の木村 国広 課長と時津町の相川 節子 教育長も視察されました。

この視察は、文部科学大臣表彰とは関係なしに、計画されたものです。

第6回 ～スポーツの秋にちなみ「長崎発祥のスポーツ」を学ぶ～

第6回サタデーRoomは10月14日（土）、児童39人（21人欠席）、スタッフ16人（うち大学生13人）、総勢55人が参加し、時津公民館別館で開催しました。

なお、長崎外国語大学 BBS クラブの活動状況の見学に、法務省 長崎保護観察所 法務事務官の福家 進太郎氏と居倉 聖氏が見えられました。お二人には最初から最後（反省会）ま

で熱心に見学していただきました。

前半は、長崎外国語大学の学生スタッフが講師で、英語のゲームとグリーティングカード作りをしました。後半は、長崎発祥のスポーツ、バドミントン、ボウリング、けん玉について太田スタッフが説明を行い、それぞれのグループに学生スタッフが付いて、実体験をしました。



バドミントン



ボウリング



けん玉

第7回 ～「日本と外国の文化」の違いを学ぶ～

第7回サタデーRoomは11月11日（土）、児童41人（19人欠席）、スタッフ13人（うち大学生10人）、総勢44人が参加し、時津公民

館別館で開催しました。

今回のテーマは「日本と外国の文化を学ぶ」で、留学経験のある長崎大学と長崎外国語大

学の学生が、外国の習慣や食べ物、言葉などについてクイズを交え紹介しました。大学生スタッフの留学生3人（イギリス1人、中国2人）も自国の紹介をしました。

子どもたちに紹介した国は、イギリス・ドイツ・メキシコ・中国の4か国でした。

今回分を2回に分けてもよかったぐらいのボリュームでした。



日本と外国の文化の違いを長崎外国語大学の留学生が説明

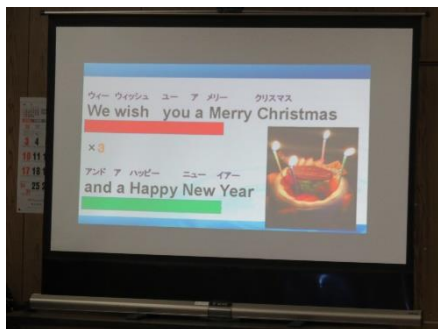
第8回 ～英語で歌うクリスマスソングとクリスマスリース作り～

第8回サタデーは12月9日（土）、児童44人（15人欠席）、スタッフ15人（うち大学生12人）、総勢59人が参加し、時津公民館別館で開催しました。

前半が英語の学習で、クリスマスソングを英語で歌おう！と「I find ○○○」と声に出し、絵の中のウォーリーや物、動物、昆虫などを探すゲームでした。

後半は、間近に迫ったクリスマスのために、クリスマスリース作りをしました。子どもたちの力作は、時津町役場ロビーに約1週間展示し、来庁者に見ていただきました。

今回のサタデーには「長崎県放課後子ども総合プラン及び土曜学習」推進委員会委員の5人と事務局の長崎県教育庁生涯学習課の3人の方が視察に見えられました。



クリスマスソングの歌詞を英語で覚え合唱 クリスマスリースの作り方を説明し、各自思い思いのリースを作る

当面の予定

◎ シニア パソコン教室事業「アミーゴ サロン」後半がスタート

12月19日（火）に後半がスタートし、今年度は残り3回になりました。

平成29年度の登録会員数は27人。30年度は、2月中旬の町内回覧で、新たに参加者募集を行います。その他、詳細については、参加者募集のチラシでご確認ください。

◎ 時津港沿岸（ウォーターフロント公園周辺）のごみ拾い 3月24日（土）実施




3月24日（土）に、今年度最後の行事「時津港沿岸（ウォーターフロント公園周辺）のごみ拾い」を実施します。詳細は広報とぎつ3月号または案内チラシでご確認ください。

★ ホームページ掲載記事リスト (10月～12月 ホームページ 21件 ブログ 22件)
活動報告や町の話などを発信しています。

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. カナリーホールイベント情報 (1月・2月) | 12. 時津港沿岸のごみ拾い (10月21日) |
| 2. 子ども食堂「はこべら」ご案内 (1月) | 13. 第6回とぎつサタデールーム |
| 3. カナリーホールイベント情報 (12月・1月) | 14. 第46回 2017時津町文化祭 |
| 4. 地域カフェ とき平成30年予定 | 15. カナリーインフォメーション 2017No.2 |
| 5. 第8回 とぎつサタデールーム | 16. ゲーデ・ピアノ四重奏団コンサート |
| 6. 子ども食堂「はこべら」ご案内 (12月) | 17. 平成29年度「やさしいパソコン教室」スタート |
| 7. 第1回 社協まつり (H29.11.18) | 18. 平成29年度 町民体育祭 |
| 8. 第7回 とぎつサタデールーム | 19. サークル紹介「和紙ちぎり絵時津教室」 |
| 9. 時津 古写真展 (とぎつカナリーホール) | 20. 会報54号 (コミュニティ時津) |
| 10. カナリー古写真コンテスト (写真募集中) | 21. カナリーホールイベント情報 (10月・11月) |
| 11. カナリーホールイベント情報 (11月・12月) | |

ホームページアドレス : <http://www.togitu.org>

ブログへは当法人のホームページのトップページからアクセスできます。

《ブログ入口   》という表示があります、 をクリックすると開きます。

◎ はじめに

NPO 法人コミュニティ時津の会報は、当法人の会員や諸行事にご参加いただいた方、関係先の方などにも配布し、当法人の活動状況を報告させていただいています。従いまして、下記の「会員の皆さんへ」は、会員以外の方には関係ございません。

◎ 会員の皆さんへ

4月1日から新年度(平成29年度)に入りました。年会費は年度初めに、お納めいただくようお願い申し上げます。

下記預金口座にお振り込みいただくか、最寄りの当法人の理事にお渡しください。

十八銀行時津支店 普通191973	} 口座名 : NPO 法人コミュニティ時津
親和銀行時津支店 普通2575919	

年度途中で納入確認ができなかった方には、10月と1月発行の会報に「年会費納入のご案内」(お願い)を同封させていただきます。案内が同封されていない方は、納入がお済みの方です。二重払いをされないように、ご注意ください。

なお、納入済みの方へ「お願い」が届くなどの行き違いがありましたら、お手数ですが当法人(下記の連絡先)に、ご連絡くださるようお願い申し上げます。

★ 入会を希望される方へ

NPO 法人コミュニティ時津に、電話・FAX・メールで申し込むか最寄りの会員に申し出てください。当法人のホームページからも申し込みができます。



発行元 (連絡先) : NPO 法人 コミュニティ時津
〒851-2102 長崎県西彼杵郡時津町浜田郷 110 番地 3
Tel/Fax : 095-882-2408 e-mail commutogi@ngs1.cncm.ne.jp
URL <http://www.togitu.org>